

議案第 1 号

様々な地域課題に取り組む市民公益活動を支え、共に動く

福島と隣り合ういろいろなまちで、さまざまな市民公益活動団体が、
地域を超えて支え合いながら、自立・自律の心意気を持って活動を行い、
そこに集う人たちも安心して活動できる—そんな市民社会の応援団になりたい
と願っています。

2014 年度

(2014 年 10 月 1 日～2015 年 9 月 30 日)

特定非営利活動法人 市民公益活動パートナーズ

事業報告書

■目次■

1. 2014 年度事業報告書
2. 2014 年度活動計算書/付記 (重要な会計方針 等)
貸借対照表、財産目録
3. 監査報告書
4. 2015 年度事業計画 (案) 及び活動予算書 (案)
5. 役員改選

資料—当法人及び活動/マスコミ掲載記事、事業の広報ツール等

2014 年度をふりかえって

東日本大震災・福島原発事故から既に 4 年以上が経過してもなお、浜通りから避難され仮設住宅等での暮らしを余儀なくされている方々がいる一方、早い時期から避難先地域やふるさと周辺での自宅再建を図った方々、復興公営住宅等へ転居をする方々が 2015 年 3 月以降増加傾向にあるなど、「次の暮らし」に向けたさまざまな動きが目立っています。

また、地域を見渡すと、震災以前から燻っていたいろいろな地域課題や住民のニーズが複雑に絡み合い、その解決に向けた対応は一層困難になっています。

そうしたなか、2011 年 2 月に法人設立をした市民公益活動パートナーズは、会員のみなさまや周囲のご理解とご支援、ご協力によって、本来事業と復興・地域再生支援事業を織り交ぜたり、若者を中心とした人材育成に取り組んだりしながら、おかげさまで第 5 期を無事に終えることが出来ました。

特に、今期は若者と一緒を実施する PJ が 3 本あり（うち、2 本は継続中）、これからの地域の担い手となる高校生・大学生と実務を通して深く関わり続けたことが、中間支援組織として特色ある取組みの一環となりつつあります。

今後、NPO 法人組織としては「草創期」を過ぎ、「整備・成長期」に入りますが、財政構造と組織のガバナンスを見直しつつ、事務局運営の充実もより一層図り、市民社会に信頼される組織を目指さなくてはなりません。

会員の皆さま方の変わらぬご支援、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

2014 年度事業の成果と課題

2013 年度通常総会で承認された今期事業計画に基づき、2014 年度事業の重点についての成果と課題や対策を振り返ります。

重点 1. 市民公益活動促進支援の継続と発展

今期は、人財育成の取組み（場づくり）を行いながら、個別のニーズにも対応する計画を立てました。具体的には、NPO 活動に取り組もうとしている学生や市民に対する支援。もう一つは、既に活動に取り組む団体のリーダー等に対する組織基盤強化の支援活動でした。

双方の取組みに対し、（社福）中央共同募金会 赤い羽根 NPO・ボランティアサポート第 14 次の助成（2014 年 5 月～15 年 9 月 ※助成期間は 2014 年 7 月～15 年 9 月）を受けながら、実施することが出来ました。

前者は今期開催した NPO 相談会や、法人設立（2011 年 2 月）以来、相談業務を通じた問合せや質問を集約、整理し、Q&A50『NPO ナビ本』としてまとめました。（HPリニューアル工事に伴い、アプリが遅れていますが、年内公開予定です）

後者は NPO 相談会等を通じてコンタクトがあった団体に対し、さまざまな課題解決のため、個別対応や出張も含めて、よりきめ細やかに実施しました。

今後の課題・対策：NPO 相談会は定期的な開催を検討します（月 1～2 回※水曜日夜を候補として。担当：古山、松田理事）。また、個別相談に対する取組みも強化します。「監事学」を始めとした理事会及び事務局の基盤強化への支援活動に関しては、具体的なアクションに結び付いていませんが、来期の重要な取組みの一つとします。

重点 2. 組織基盤強化のための取組みと運営体制の強化

2014 年度では、会計業務の正確な遂行と、閲覧書類や事業関連書類等、事務所内の情報管理の改善を目指しましたが、法人設立時に入所した事務局スタッフが 2014 年 12 月に退職。その後、事務局体制が十分に整わないまま期末を迎えることとなり、その取組みは大幅に遅れました。

しかし、各事業の中間報告に伴う精算や今期の決算等の作業を通じ、会計業務スタッフの OJT もある程度進みましたが、重点的な取組みは 2015 年度に持ち越すこととなります。財源の収支バランスの改善を図りながら、運営体制の整備になお、力を尽くします。

今後の課題・対策：当面の間（2015 年度上半期）、理事による会計伝票や仕訳日記帳等、会計帳簿のチェックを行います。また、情報公開のための書類の整理、閲覧に関してはマニュアルを作成し、事務局スタッフの誰でもが常に整えることが出来るよう、体制を整えます。

重点 3. 後方支援活動を中心に据えた復興支援活動を継続する

この事業のコンセプトである「人と情報の交流ひろばをつくる」取組みの一環として、震災以降、継続して支援活動に取り組む活動団体や企業を取り上げ、伝える『復興支援情報ステーション NEWS』（以下 NEWS）の発行を続けています。2014 年 10 月に 00 号創刊、5,000 部。現在 08 号（2015 年 10 月発行）。この NEWS は、自主事業として編集・発行する『おたがいさま新聞』に挟み込んで、県内外の読者に届けています。

NEWS は、2011 年度～2012 年度にかけて福島県及び山形県、宮城県の復興支援活動団体の調査を行い、開設した「復興支援情報ステーション」の新たな活動となっており、今後も継続して取り組みます。（なお、NEWS に関しても「赤い羽根・ボラサポ第 14 次」の助成を受けました。）

今後の課題・対策：福島に長期に亘る復興・生活再建支援において、被災者が自ら立ち上げる草の根の活動や、災害発生時から継続的に応援を続けるさまざまな組織の様子を伝えていくため、『おたがいさま新聞』『復興支援情報ステーション NEWS』は自主事業として、当面の間、隔月刊とし、経費を押さえつつ発行を継続し、情報発信を続けます。一方、寄付集めはもちろん、これから事業提案を行う助成金・補助金事業の中に、事業の柱としてこの活動や経費を組み込むことも工夫の一つとして検討します。

同時に、避難されている方々の自宅再建や復興住宅への入居の動きが活発化する中、平成 29 年 3 月末を目途とする仮設住宅の撤廃以降、今後の復興・生活再建支援活動をどう組み立てるべきなのかを理事会・事務局で協議することも急務です。

2014年度 組織運営に関して

◆役員 2014年度：5名

代表理事	古山 郁（常勤）	福島県福島市
副代表理事	佐藤 玲子	福島県福島市
副代表理事	松田 英明	宮城県仙台市
理事	遠藤 智栄	宮城県仙台市
監事	中鉢 博之	福島県福島市
監事	山口 充夫	山形県米沢市

◆事務局 2014年度：12名

古山 郁（代表理事）
安田 芳樹（当法人アドバイザー）
田中 英子（事務局スタッフ パートタイム/会計担当）
豊口 澄子（事務局スタッフ パートタイム/被災者支援担当）
田村 裕亮（被災地の「今」を伝える 相想スマイル PJ メンバー 大学生チームリーダー）
佐藤 翔太（被災地の「今」を伝える 相想スマイル PJ メンバー）
綱川 結香（被災地の「今」を伝える 相想スマイル PJ メンバー）
菅原 千慧（事務局アルバイト・学生ボランティアによる地域の宝可視化 復興支援プログラム開発 PJ メンバー）
鈴木 岳瑠（事務局アルバイト・学生ボランティアによる地域の宝可視化 復興支援プログラム開発 PJ メンバー）

渡辺 和子（事務局スタッフ パートタイム）※2014年11月30日退職

阿部 美奈（事務局スタッフ パートタイム）※2014年12月26日退職

半澤 真理（事務局スタッフ パートタイム）※2015年3月16日退職

◆ボランティア 2014年度：のべ27名

- ・社会人 1名（復興支援活動、特に「映画の時間ですよ」のデータ作成等）
- ・相馬スタンププロジェクト 9名（福島県立相馬高等学校 5名、相馬東高等学校 4名）
- ・相想スマイルプロジェクト 8名（福島県立相馬高等学校 5名、相馬東高等学校 4名）
- ・桜の聖母短期大学 5名（学生ボランティアによる地域の宝可視化 復興支援プログラム開発 PJ に参加）
- ・イベント時の協力者 4名（新潟、大阪各2名が単発で参加）

◆会員 2014年度：22名（2015年9月30日現在）

2014年度中の入会：2名（正会員）

◆総会

2014年度（第4期）通常総会

1. 開催日時 2014年12月7日（日）14時～16時40分
2. 開催場所 福島市市民活動サポートセンター 会議室
3. 出席者数 21名（うち、委任状13名）
4. 議案 議案第1号 2013年度事業報告について
議案第2号 2013年度活動計算書（決算報告）について
議案第3号 2014年度事業計画（案）について
議案第4号 2014年度予算（案）について

◆理事会等

理事会第1回 2014年11月28日（福島事務所）

1. 議案第1号 第4回通常総会の議案及び進行等に関して
2. 事務局からの報告 2014年度事業及び会計監査（11月27日実施）

理事会第2回 2015年2月23日 開催（福島事務所）

1. 議案第1号 法人所有車両の処分について
2. 事務局からの報告
・総会後の各事業の進捗状況について ・事務局体制について
3. 意見交換

役員 ML（相談）及び福島在住の役員による緊急ミーティング

【メールによる相談】2015年3月3日～9日（全役員とのやり取り）

平成27年度若者自立支援（就労体験等）事業@福島県雇用労政課への応募について

【上記に基づいたミーティング】2015年3月11日開催（福島事務所）※福島在住の理事3名

◆寄付

今期も、『おたがいさま新聞』や『復興支援情報ステーション NEWS』のPRや会議、シンポジウム等への参加時を中心に、寄付募集活動を積極的に行いました。

特に、「美味しいふくしま、召し上がれ in TYO&OSA」及び「美味しい「ふくしま」召し上がれ～近くから遠くまで、福島をPR～」の2つのプロジェクトを通じて、被災地の復興に関心の高い市民の方々からの寄付も頂いています。

仮認定 NPO 法人取得：2013年度/2014年9月16日福島県認定

2014年度の事業も各々、定款に定めた(1)～(6)に関わる事業として取組みました。

各事業名の右横や行下に、※(No.)事業の種類(一部省略)として、該当する事業を示します。

定款 第5条

- (1) 市民公益活動及び組織運営全般に係る相談・助言・研修等に関する事業
- (2) 市民公益活動の普及啓発に係る広報、人・財登録及び情報提供等に関する事業
- (3) 市民公益活動に係る会計基準及び評価に関する普及啓発・調査研究事業
- (4) 監査・監事業務の啓蒙事業
- (5) 前各号に係る協働の企画提案・ワークショップの企画運営・情報の収集及び発信に関する事業
- (6) その他、第3条の目的を達成するために必要な事業

自主事業(通年)

1. 市民公益活動及びNPO活動相談 ※(1)相談・助言・研修等/(2)～(6)も含まれます

2. NPO組織基盤強化及びNPO活動に関する研修

※(1)相談・助言・研修等/(3)会計基準及び評価に対する普及啓発・調査研究

★1. 2. 共に、助成金・補助金事業の項で詳しく報告します

3. 復興支援・生活再建支援活動「いつもの暮らしに戻ろうプロジェクト」

※(2)広報、人・財登録及び情報提供/(6)その他

●『おたがいさま新聞』の発行

概要：通巻第28号～第34号までの7回発行を行いました。(2015年度分は参考まで)

課題：「おたがいさま(助け合い・交流)」と「地域再生」をキーワードに取材を続けていますが、年を経るごとに取材状況が厳しくなっています。同時に、財源確保の問題も抱え、ボランティア募集と寄付集めの強化を図り、より効果的な解決策を探ります。

発行年月日		通巻	主な内容	浪江の笑顔
2014年	11月10日	第28号	特集 頑張るひと・励ますひと 農業生産法人まるせい果樹園 佐藤清一さん 無能寺秋のコンサート(伊達郡桑折町) コミュニティ茶ロ「あぶくま茶屋」秋の収穫祭	各号6人の コメントを掲載
	12月15日	第29号	特集 頑張るひと・励ますひと 有限会社まるつ商店・「清昭丸」船主 菊地基文さん パッチワーク作家の遺志を引き継ぐずらん会 浪江手づくり見本市2015(参加募集)	
2014年度	2015年	1月25日	特集 頑張るひと・励ますひと 安齋醸造(有) 安齋公一さん 桑折町災害公営住宅(進捗状況) 梁川町「にっこりクラブ」イベント(桑折町)	
		3月20日	第31号 土湯温泉地区まちづくり協議会「土湯・福島がんばろうイベント」 特集 頑張るひと・励ますひと (有)ホンダワイナリー 掃部閣守さん 助成金・補助金「無料相談会」	
	5月15日	第32号 NPO法人いざかサポーターズクラブ「はるモニカツ」 活動紹介 浪江の伝統芸能「請戸田植え踊り」 頑張るひと・励ますひと 常泉寺ギターコンサート		
	6月20日	第33号 おめでとう、桑折御蔵 浪江の人たちと共に祝った誕生会・交流会 自分たちの地域を孫子の代まで遺すために 二本松市下長折地区の試み		
	8月20日	第34号 浪江町交流拠点「あつまつべ交流館」 伝統芸能で心をつなぐシリーズ1 室原郷土芸能保存会		
(2015年度) 2015年	10月15日	第35号 本宮に住む人たちが一緒に楽しむ 第2回本宮市・浪江町「ふれあい芋煮会」 伝統芸能で心をつなぐシリーズ2 南津島伝統芸術保存会	各号6人の コメントを掲載	
	12月1日 (予定)	第36号 花見山に、感謝の記念植樹を。「がんばろうおだか会」明日に向けた解散 聴く人も演奏する人も一緒に楽しむ 桑折町無能寺「秋のコンサート」		

●映画上映会「映画の時間ですよ」の実施

概要：理事3名が休日（土日祝）を利用して月に1回程度、開催しています。映画（DVD）は当法人所有であり、開催時には感想と次回以降の上映希望作品を問う簡単なアンケートを実施。データとして蓄積しています。

なお、桑折駅前応急仮設住宅は自治会が無くなり受入が難しくなったこと、住民の関心が薄れてきたことから、15年6月以降、活動を休止しています。

課題：県北地域に点在する浪江町仮設住宅は、2017年3月を目途に順次閉鎖される予定であり、その後の活動を検討する必要があります。

桑折駅前応急仮設住宅		
上映年月日	タイトル	参加人数
2014年10月24日	べらんめえ芸者	15
11月28日	丹下左膳「百万両の壺」	9
12月22日	たそがれ清兵衛	9
2015年1月24日	超高速！参勤交代	15
2月22日	アルゼンチンババア	13
3月21日	「男はつらいよ 寅次郎恋愛塾」	5
4月25日	陰日向に咲く	5
6月20日	武士の家計簿	4
笹谷東部応急仮設住宅		
上映年月日	タイトル	参加人数
2014年10月24日	旅情	12
11月28日	百万円と苦虫女	13
12月22日	ちよんまげぶりん	14
2015年2月7日	超高速！参勤交代	16
3月21日	蒲田行進曲	7
4月25日	陰日向に咲く	10
5月23日	ティファニーで朝食を	12
6月20日	しゃべれどもしゃべれども	9
7月25日	ブタがいた教室	9
南矢野目応急仮設住宅		
上映年月日	タイトル	参加人数
2014年10月20日	男はつらいよ「夜霧にむせぶ寅次郎」	18
11月10日	男はつらいよ「寅次郎真実一路」	15
12月15日	にっぽん泥棒物語	14
2015年1月12日	超高速！参勤交代	17
2月7日	男はつらいよ「寅次郎の青春」	16
3月15日	蒲田行進曲	16
4月11日	男はつらいよ「幸福の青い鳥」	19
5月9日	タンポポ	16
6月13日	寅次郎のあじさいの恋	15
7月25日	昭和残任侠伝 破れ傘	15
8月29日	青い山脈	22
9月26日	トラック野郎 一番星北に帰る	12

連携・協力事業

1. 「浪江のこころ」プロジェクトへの取材等 ※（2）広報、人・財登録及び情報提供

◆取組み期間：通年（2011年7月～約4年2ヶ月/今後も継続予定）

◆概要：

・浪江町「広報なみえ」特集「浪江のこころ通信」取材・原稿作成

14年10月～2015年9月（通巻第40号～52号）実績：5件（内グループインタビュー3件）

・取材協力者情報交換会への出席

14年11月9日 第2回会議 郡山市市民交流プラザ

15年9月26日、27日 第3回会議

第1日目 浪江町視察/第2日目 情報交換会 福島グリーンプラザホテル

・第1日目の視察では、棚塩（仮設ゴミ焼却場）から請戸、大平山の共同墓地、幾世橋のNPO法人Jin農場、町中心部（役場、駅）、米の実証栽培を行う酒田地区等、2年前の現地視察より多くの地区を巡りました。

・第2日目の情報交換会では、話題提供者の一人として取組みと所感を発表しました。

◆課題：浪江町民の暮らしが仮設から復興住宅、自宅再建へと転換期を迎え、取材のアポイントが難航する状況にありますが、この「声を届ける」活動は務めて継続していきます。



2. （社福）福島県社会福祉協議会 ボランティア活動推進委員会（委員）

※（1）相談・助言・研修等/（2）広報、人・財登録及び情報提供/（5）協働の企画提案等

◆任期期間：2013年7月～2015年3月・2015年4月～2017年3月（2期目）

◆概要:委員会への出席（年2回程度）

3. 全国ボランティアフェスティバル 2015（15年11月 福島県郡山市開催）実施協力

※（5）協働の企画提案、WSの企画運営、情報の受発信

◆取組み期間：2014年5月～2016年3月（約23ヶ月/専門部会委員）

◆概要：2015年11月21日～22日、郡山市で開催される「第24回全国ボランティアフェスティバルふくしま」に向けて、2013年度から関わり、2014年度は通年の取組みです。

・第3回～第10回専門部会への出席（今年度8回）—企画提案、情報交換等

・分科会「避難者の“今とこれから”を支える人たちと、話そう・知ろう・考えよう」の企画、実施準備

4. 福島市市民活動サポートセンター運営協議会（委員）

※（１）相談・助言・研修等/（２）広報、人・財登録及び情報提供/（５）協働の企画提案等

◆任期期間：2014年8月～2016年7月（1期/2年間）

◆概要：委員会への出席（年2回程度）

5. みんぷく・コミュニティ交流員「福島ランチ」の設置・運営協力

※（２）広報、人・財登録及び情報提供

◆協力期間：2014年10月～2015年8月（11ヶ月）

◆使用料等：スペース使用料/月*+水道光熱費及びコピー複合機使用料

* 14年10月～15年5月まで48,000円（スペース使用料+インターネット使用料）

15年6月～8月まで45,000円（スペース使用料のみ）、水道光熱費のみに契約変更

◆概要：2014年10月に福島事務所2階「うわまちワーキングスペース」の使用契約を取り交わし、2015年8月まで、復興公営住宅等の自治を支援するコミュニティ交流員の県北地域の活動拠点となりました。（15年8月末、福島市鎌田に移転）

◆課題：県北地域に避難する相双地域の方々の情報提供や復興住宅への入居や暮らしづくり等の情報交換を望んだが、具体的なアクションには繋がり難く、スペースの共有と協働の仕組みづくりが課題として残りました。しかし、「人材の提供」による応援に対するニーズは潜在するものと考え、新たなアプローチを試みます。

助成金・補助金事業 その1

2015年3月末まで（2014年度上半期）取り組んだ事業

1. 浪江のこころをつなぐ 若い語り部育成応援プロジェクト（略称：紙芝居 PJ）

助成金事業

※（1）相談・助言・研修等/（2）広報、人・財登録及び情報提供/（5）協働の企画提案等

◆ドナー：（公財）公益法人協会「東日本大震災草の根支援組織応援基金 第1回配分」

◆事業実施期間：2014年4月～2015年2月（約11ヶ月）

◆事業予算額：510,000円/助成金額：500,000円 →精算額：511,514円

◆概要と実績：

・「浪江まち物語つたえ隊」のメンバー3団体（つたえ隊、桑折ふるさと民話の会、保原ふるさと民話の会）を紙芝居指導団体とし、実践的な講座6回を実施（2014年度は第5回10/19、第6回11/16）

・受講者12名（学生・社会人20代女性4名、中高年女性8名）

→修了者・読み手ボランティア登録者8名（6回のうち3回以上の受講者）

・2015年1月26日「読み手お披露目（発表会）と交流会」の開催

福島テルサ大会議室「あぶくま」13:30～16:30

参加者：約55名（一般参加40名、受講者も含めた主催15名）

※同時開催：浪江手づくり見本市2015（10:30～15:00）会場後方にスペースを設け、展示・販売

・受講者、ボランティア登録者は当初の目標の約60%に留まったが、協力・連携した団体からは講座・発表会共に高い評価を頂きました。（以降、主催イベント等への出演の勧誘も行っているそうです。）

・受講者が発表会に向けて自主的に練習に励んだことも、成果の一つです。2014年12月～15年1月の間に2チーム各2～3回、「うわまち交流ひろば」を利用し、行いました。

・助成により、紙芝居の新作を制作しました。受講者が全員福島市在住だったため、地元で題材を採った『乙和の椿』とし、発表会で初披露しました。

◆主な課題

紙芝居 PJ はボランティア開発プログラムとして継続・発展出来る可能性がありますが、受け皿となる活動団体の強いニーズや協力・連携が得られなければ実現は難しく、コーディネイトの仕組みづくりをより深める必要があります。



2. 相馬スマイル応援スタンププロジェクト（略称：想馬スタンプPJ）

委託事業

※（2）広報、人・財登録及び情報提供/（5）協働の企画提案、WSの企画運営、情報の受発信

◆委託：福島県「ふくしまから はじめよう。若者ふるさと再生支援事業」

（県青少年・男女共生課*）*現在は子ども未来局子ども・青少年政策課に改編

◆事業実施期間：2014年4月～2015年2月

◆委託契約額：1,247,281円 →精算額：1,342,061円（▲94,780円）

◆概要と実績：

・活動者：

高校生チーム：9名（福島県立相馬高等学校5名、相馬東高等学校4名）

大学生チーム（事務局*と高校生の橋渡し役）：3名（福島大学）

*WSファシリテーター、実践アドバイザー各1人が専門的な立場からバックアップすると共に、当法人理事（佐藤玲子、松田、古山）やデザイナー（佐藤りみさん）もスタッフとして参加

・年度を跨いででの取り組み（2013年度は地元高校生による地域活動の企画及び実践活動に向けた準備等）となり、今年度は「LINEスタンプ」制作（2015年4月お披露目）と「相馬スタンプラリー」の開催（2015年1月～2月実施）を行いました。

◆主な課題：

・高校生チームが描く地域貢献活動の企画・実践をバックアップするため、予算以上に人件費がかかり、全体経費が委託契約額の7.6%増となりました。

・相馬地方の高校生や県内の大学生と共に今後も活動を継続するために、地元組織やNPO団体、自治体等との協力・連携をどう図るのか、工夫を図る必要があります。

・復興からの再生支援を含めた地域貢献活動に自ら取組もうとする若者やボランティア等の人材発掘の仕組みが十分に整っていないため、急ぎ造り上げる必要があります。

3. 美味しいふくしま、召し上がれ in TYO&OSA

補助金交付事業

※（2）広報、人・財登録及び情報提供/（6）その他

◆補助金交付：福島県「平成 26 年度福島県ふくしまの恵み PR 支援事業」

◆事業実施期間：2014 年 5 月～2014 年 12 月

◆事業予算額：803,000 円/補助金額 667,778 円

→精算額：751,657 円（取組みの約 89%補助）

◆概要と実績：

・昨年度（2013 年度）の取組み：料理研究家の協力を得て福島県産農林水産物・加工品を用いた試食を提供しながら、県産食材の美味しさと安全・安心に向けた取り組みをアピールするため、被災地支援や食生活に関心の高い主婦を対象にイベント（東京・大阪）を 2 回開催しました。

・2014 年 10 月 10 日、11 日（1 泊 2 日）「体験ツアー」の開催（福島駅集合 福島市内・土湯温泉宿泊・相馬市 福島駅解散）

東京のイベントに参加・協力して下さった方々を中心に 21 名が参加。中通りの果樹農家や温泉旅館、浜通りの漁業者から復興再生への取組みを体験するツアーを実施しました。



◆主な課題：2013 年度に引き続き 2 期目の取組みでしたが、福島県産食材の安心・安全への取り組みを十分にアピール出来たとは言い切れず、もっと参加者や市民の声を拾うための工夫が求められます。

4. キックオフミーティング・阿武隈もてなし人ゼミナール・報告会の開催

委託事業

※（2）広報、人・財登録及び情報提供/※ 5）協働の企画提案、WS の企画運営、情報の受発信

◆委託：NPO 法人いざかサポーターズクラブ

福島県「県北あぶくま地域着地型観光体制支援事業」人材育成のための講座

◆事業実施期間：2014 年 10 月～2015 年 3 月

◆委託契約額：511,810 円 →決算額：511,810 円

事業に係る人件費：代表理事が実施期間中、委託団体の職員となり取組みました

◆概要と実績：「阿武隈もてなし人ゼミナール」は、「地元の人こそが地域の宝」をコンセプトに、2015 年 4 月から始まる「ふくしまディストネーションキャンペーン」（以下、DC）に向け、地域の人たちが情報発信やおもてなしを考える機会を創ることを目的にしました。

県北地域の阿武隈中山間地域（伊達郡～本宮市）において地域情報の発信に関心の高い人たちに呼びかけ、2014 年 12 月～15 年 2 月まで 6 回（各エリアで 4 回、隣合う広域エリアで 2 回）ワークショップ（以下、WS）で実施しました。（キックオフミーティングと報告会は全域）

◆主な課題：DC に向けたキャンペーンの一環という面が強く、地域課題に向き合わなければ取り組みの成果が見えてこないという反省が残りました。

（その後、参加者からご相談があり、NPO 経営ゼミナールで地域住民との勉強会を実施しました）

助成金・補助金事業 その2

2015年9月末まで（2014年度下半期）取り組んだ事業

1. “福島の日”を担う復興支援活動団体が一歩踏み出すための一人立ち応援事業

(略称：あすいちPJ) 助成金事業

※（1）相談・助言・研修等/（2）広報、人・財登録及び情報提供
（5）協働の企画提案、WSの企画運営、情報の受発信

◆ドナー：（社福）中央共同募金会

「赤い羽根災害ボランティア・NPO活動サポート募金 第14次」

◆事業実施期間：2014年5月～2015年9月

但し、助成期間：2014年7月～2015年9月（約15ヶ月）

◆事業予算額：3,000,000円/助成金額：2,470,000円 →精算額：2,185,712円

◆概要：福島で活動する復興支援活動団体や若者のボランティア・グループ、関心の高い市民が、今後、長期に亘る復興・地域再生活動を継続していくためには、地域社会に信頼され、共感を得られるような団体であることが求められ、団体自らが組織や事業における課題を解決しながら成長できるように応援することを目的にしました。同時に、当法人の中間支援としてのスキルアップも目指しました。

◆実績：

・NPO相談会：13回（その他個別相談：11回）

・NPO経営ゼミナール：5回（うち出前が3回）

「NPO経営ゼミナール」は、NPO相談会と並行して取り組みました。当初は複数の参加者によるセミナー形式で実施する予定でしたが、NPO相談会等を通じてコンタクトがあった団体に対し、さまざまな課題解決のため、出張も含めて、よりきめ細やかに対応しました。

この他、今年度は学生を中心に進めているプロジェクトが2本あり、5名をアルバイト雇用していますが、その学生たちに対して、NPO・ボランティア活動ばかりではなく、企画や広報についても講座やワークショップを通じて学ぶ機会を提供しました。

・Q&A50を集めた『NPOナビ本』の制作

2011年2月の法人設立以来、相談業務を通じた問合せや質問を集約、整理し、主だったものや重要と思われるものを取り上げました。

・『復興情報ステーションNEWS』（以下、NEWS）の発行 ★次ページに一覧を掲載しています



◆主な課題

・事業計画の約 20%弱が達成出来ずに助成期間が終了しました。最も大きな原因として、実施時期のピークを迎える 2015 年年明け～春にかけて事務局体制がなかなか整わず、また事業責任者である代表理事が他の事業に追われ、なかなか経営ゼミナール等の実施に向けた渉外活動に取組めなかったことが挙げられます。

・『NPO ナビ本』の編集はほぼ終了したものの、インデックス作成や最終校正（事務局の加筆修正）と、当法人 HP へのアップ（年内公開予定）が残っており、今後の取組みとなります。

・事業の柱として、NPO 相談会や基礎講座・経営ゼミナール・NEWS（復興支援団体の活動を発信）といった取組みに加え、避難者・被災者のニーズの把握と団体間のマッチングを上げていましたが、不十分でした。そこで、2015 年度は NPO・市民公益活動支援の一環として、この取組みを積極的に進めます。

★『復興支援情報ステーション』の発行状況

	発行年月日	通巻	主な内容
	2014年	11月10日	00号 NPO法人ビーズふくしま「うつくしまふくしま子ども未来応援プロジェクト」（福島市） 県北地域 地域の交流拠点
		12月15日	01号 社会福祉法人 大玉村社会福祉協議会「大玉社協サロン」（安達郡大玉村） NPO法人 福島県レクリエーション協会
2014年度	2015年	1月25日	02号 NPO法人SORAアニマルシェルター（福島市） 福島介護福祉専門学校 ボランティアサークル「ふくかいねっと」（二本松市）
		3月20日	03号 一般社団法人ふくしま連携復興センター「ふくしまの今とつながる相談室toiro（といろ）」（福島市） 学生団体 福島大学災害ボランティアセンター（福島市）
		5月15日	04号 NPO法人NPOほうらい（福島市） 曹洞宗 東日本大震災災害対策本部 復興支援室分室（福島市）
		6月20日	05号 相馬広域こころのケアセンターなごみ（相馬市） NPO法人ささえ愛ふらっと（伊達郡桑折町）
		6月20日	06号 福島友の会（福島市） みんぶく・コミュニティ交流員（いわき市） ※みんぶく：NPO法人3.11被災者を支援するいわき連絡協議会
		8月20日	07号 きぼうのたねカンパニー株式会社（二本松市） NPO法人ビーズふくしま「みんなの家@ふくしま」（福島市）
(2015年度) 2015年	10月15日	08号 小高商工会女性部「ひまわりカフェ」（南相馬市） NPO法人子育て支援グループこころ（二本松市）	

助成金・補助金事業 **その3**

2014 年度以降も継続して取り組んでいる事業

1. 被災地の「今」を伝える 相想スマイルプロジェクト（略称：相想スマイル PJ）

助成金事業

◆ドナー：住友商事（株）「東日本再生ユースチャレンジ・プログラム 2015（調査・研究助成）」

◆事業実施期間：2015 年 4 月～2016 年 3 月

◆事業予算額：2,470,000 円（助成金額と同額）

◇実施体制：以下の年代の異なる 3 つのチームが、互いをサポートしながら進めています

- ・高校生チーム 8 名（相馬高校 5 名、相馬東高校 3 名 うち、想馬スタンプ PJ に参加した生徒が 2 名参加しています）
- ・大学生チーム 3 名（福島大学/田村裕亮、佐藤翔太、綱川結香さん うち、想馬スタンプ PJ に参加し田村裕亮がリーダーを務めています）
- ・事務局（理事 2 名）



◆概要：

・2013 年度に県の委託事業で取り組んだ「想馬スタンプ PJ」がベースとなり、継続・発展したプロジェクトです。高校生チームが中心となって取り組む活動（2015 年 4 月～8 月）と、大学生が中心となって取り組む活動（15 年 9 月～16 年 2 月頃まで）、前半と後半を併せて一つの PJ としました。

・被災地である相馬地方の高校生チーム自らが地域の様子や人々の取組みを全国に向かって発信すること。そのために自ら「体験ツアー」のプログラムを企画し、同世代や 20 代の若者たちに呼びかけ、復興からの再生と現状を伝えること

・大学生チームは、前半、高校生チームの活動をフォローし、事務局との橋渡し役も兼ねること。後半は風化しつつある震災前後の映像記録（ドキュメンタリーや映画）の調査を行い、データベース化を図ると共に、この PJ の締め括りとして、若者を中心に呼びかける報告を兼ねたイベントを企画、実施すること

◆実績：

・2015 年 4 月～5 月：活動計画ワークショップ（3 回）

高校生チーム 8 名 + 大学生チーム 3 名 + WS ファシリテーター、事務局（理事 2 名）で実施

15 年 6 月～8 月：広報のためのミーティングやリハーサル等を実施/

・2015 年 8 月 8 日、9 日（1 泊 2 日）



STUDY TOUR SOMA「相馬に出陣！高校生が考えた旅～被災地の今とこれから～」の開催

参加者 26 名（高校生 9 名、大学生 11 名、大人 4 名、子ども 2 名）

・2015 年 9 月 12 日、13 日「住友商事ユースチャレンジ・フォーラム 2015」（宮城県仙台市）

第 1 日目の中間報告会で高校生チームが前半の取組みを発表（太田美優さん、松本光基君）

◆主な課題：

・後半の活動である映像の調査活動は、震災前後のドキュメンタリー作品からスタートしましたが、残されている記録や情報が散逸し、難航しています。

大学生チームには WEB での検索よりも、県内の文化施設や映像作品のアーカイブに取り組む市民活動団体や自治体を積極的に訪ね、取材活動に力を入れるよう促しています。

・このプロジェクトの締めくくりとして「映像と対話による交流イベント」を企画しています。構成は概ね決まりましたが、具体的な準備に向けて高校生チームと大学生チームが力を合わせて活動できるよう、ファシリテーターをはじめ、事務局や周囲の関係者（大人）がバックアップします。



2. 美味しい「ふくしま」召し上がれ～近くから遠くまで、福島を PR～

補助金事業

※（2）広報、人・財登録及び情報提供/（6）その他

◆補助金交付：福島県「平成 27 年度福島県ふくしまの恵み PR 支援事業」

◆事業実施期間：2015 年 6 月～2016 年 2 月

◆事業予算額：853, 000 円/補助金 750, 000 円

◆概要：

・福島県農林水産物の安全・安心対策の取組みに対する理解を深めて頂くと共に、「美味しい福島」をアピールする展示と試食を行います。

・同時に、福島県産農産物の周知と風評被害払拭のために、来場者にアンケート調査を実施。今後の PR 対策のヒントとします。結果は PJ 終了後に公開を予定しています。

・開催地は県内 1 ヶ所、県外 3 ヶ所を候補とし、地元の間接支援 NPO や企業等に協力を求め、意識の高い市民や市民公益活動団体を来場対象者とします。

◆実績：

・2015 年 9 月第 6 回にいがた国際フェスティバル（新潟市西区新潟ふるさと村）

協力団体：NPO 法人にいがた NGO ネットワーク、加盟団体（8 団体）



・2015年10月10日～12日福島稲荷神社秋の例大祭（福島市 福島事務所軒先）



・2015年10月15日～16日御堂筋東北復興支援バザー（大阪市中央区 大阪ガス本社前）

協力企業：大阪ガスグループ“小さな灯”運動・りそな銀行（共催）

事務局：大阪ガス（株）近畿圏部ソーシャルデザイン室

※上記は大阪ボランティア協会のコーディネートによるものです



◆主な課題：

・もう1ヶ所「遠くまで」の開催候補地、参加できそうなイベントが未だ決定していません。計画段階では福岡市を想定していましたが、現在、広島市の間接支援に協力を要請中です。

参加が難しい場合のことを考え、総会終了後、他の地域とイベントを早急に検討します。

3. 学生ボランティアによる地域の宝可視化 復興支援プログラム開発プロジェクト

（略称：飯坂の宝 PJ） 助成金事業

◆ドナー：（社福）中央共同募金会

「赤い羽根災害ボランティア・NPO 活動サポート募金 第17次」

◆事業実施期間：2015年7月～2016年2月

◆事業予算額：840,000円（助成金額と同額）

◇実施体制

・ボランティアコーディネーター2名（当法人学生アルバイト/福島大学 菅原千慧さん、鈴木岳瑠君）

・学生ボランティア5名（桜の聖母短期大学）

・事務局（理事2名）

◆概要：

以下の3つを重点方針とし、役割は異なるものの、学生たちが互いが深く関わりながら成果を可視化することを目標にしました。

・これまで学生ボランティアによる復興支援活動への参加は受動的なものが多かったが、学生自らが成果をカタチにするプロジェクト型のボランティア・プログラムの開発に取り組むこと

・学生と受入れたNPOが企画から実施までのプロセスを一緒に取り組みながら、かつ活動する地域住民との連携によって、地域にとっても成果が見えやすいモデル的な活動を試み、実証すること

・学生たちがPJに自主性を持ちながら取り組み、積極的に地域の人たちや組織と関わることによって、若者を中心としたボランティア活動が地域を刺激し、復興・地域再生の新たな活動の足掛かりとなること

取り上げた地域は福島市飯坂町（飯坂温泉）。
地域資源は「ラジウム玉子」と「外湯」とし、福島市に在住、或いは通学する若者の視点からその魅力を伝えます。

◆実績：2015年6月 テストワーク（飯坂町を知る）
7月 フィールドワーク（調査・取材）

◆主な課題：

・ボランティアコーディネーターを務める大学3年生2名は実務初めてであり、学生ボランティアに対する連絡・調整やPJ進行など、都度、事務局のディレクションが必要です。日頃、疎かになる時もありましたが、PJ終了まで残り3ヶ月、丁寧なOJTに努めます。

・新たなボランティア・プログラムの開発は継続して取り組む必要があります。来期の算段も急ぎが必要です。



2014年度 事務局の記録

この一年の事務局の様子について

主な訪問・取材等					
年	月日	訪問者(団体)	訪問や相談 主な内容	場所	対応者
2014年	12月11日	紙芝居PJ受講者	紙芝居PJ自主練習	うわまち交流ひろば	
	12月23日	河北新報(福島総局 桐生記者)	『おたがいさま新聞』を中心とした支援活動(取材)	福島事務所	古山理事
2015年	1月1日～3日	紙芝居PJ受講者	三が日恒例「お振舞」	福島事務所 軒先	
	1月18日、22日	紙芝居PJ受講者	紙芝居PJ自主練習	うわまち交流ひろば	
	1月28日	NPO法人市民社会創造ファンド	東日本再生YCP事業計画に対する取材	福島事務所	古山理事
	2月10日	NPO法人土湯温泉観光まちづくり協議会	3/1土湯・福島がんばろうイベントの広報協力	福島事務所	古山理事
	2月19日	朝日新聞社(福島支局 鹿野幹男記者)	『おたがいさま新聞』を中心とした支援活動(取材)	福島事務所	古山理事
	2月23日	合同会社シェアード・エスイー長井氏	NPOへの情報戦略・ICTを活用した事業提案	福島事務所	古山理事
	3月17日	龍谷大学ボランティア・NPO活動センター 筒井のり子氏、竹田純子氏	福島の被災者支援の状況、現地視察(学生)の可能性や協力要請など	福島事務所	古山理事
	4月2日	佐藤耕平氏(いざかサポーターズクラブ理事)	阿武隈もてなし人ゼミナル受託終了の件で	福島事務所	古山理事
	4月3日	NPO法人コミュニティちやばたけ 菅野氏	ふくしま未来基金申請書について	福島事務所	古山理事
	4月16日	東北シネマ 高澤保崇氏	地域再生に繋がる映画などについて(情報提供)	福島事務所	古山理事
	4月16日	二本松市下長折行政区・ダーチャ村(夢未来いなか塾) 国分氏・田口氏	下長折自治会 住民との勉強会の相談	福島事務所	松田、古山理事
	4月30日	ふくしま連携復興センター 山崎、佐藤氏	連復の活動(事業)に対するインタビュー	福島事務所	古山理事
	5月1日	学生ボランティア受入オリエンテーション①	桜の聖母短大3名へ当法人概要とPJ説明、登録	うわまちワーキングスペース	松田、古山理事、菅原
	5月16日	学生ボランティア受入オリエンテーション②	桜の聖母短大2名へ当法人概要とPJ説明、登録	福島事務所	松田、古山理事
	5月22日	認定NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会 筒井、後藤、栗原氏	福島県被災者支援に関する情報交換	福島事務所	古山理事
	7月4日	菅野真由美氏(会員)	県北地域の避難者の住宅事情等について(取材)	うわまち交流ひろば	古山理事
	7月28日	NPO法人市民社会創造ファンド 霜田、鷲津氏	今後の東日本再生YCP事業に対するインタビュー調査	福島事務所	古山理事
	7月31日	福島県観光物産交流協会	アフターDCに向けた取組み、広報等情報収集	福島事務所	古山理事
	8月11日	おきたまラジオNPOセンター 山口充夫氏	県外避難者(山形県)への対応等情報交換	福島事務所	古山理事
	8月19日	Bridge for fukushima 鈴木氏	事業案内と活動に関するインタビュー、情報交換	福島事務所	古山理事
	8月26日	NPO法人いざかサポーターズクラブ 藤原氏	クラブや関連する組織の非営利・営利事業の整理について	福島事務所	古山理事
	9月17日	日本NPO学会 震災特別PJ東北班 菊地遼氏	被災地の中間支援NPOの復興支援活動に対する役割、今後の展望等(取材)	福島事務所	古山理事

主な出張、会議等への参加					
年	月日	訪問や会議等 主な内容	訪問先や会場		
2014年	10月6日	JCN現地連絡会議	いわき市		古山理事
	10月8日	ふくしま連携復興センター月例会議	郡山市 ミューカルがくと館		古山理事
	10月17日	全国ボランティアフェスティバル2015 会議(福島県社会福祉協議会) ※ボラフェス、県社協と略	福島市 ウィル		古山理事
	10月27日	福島市市民活動サポートセンター運営協議会	福島市 市民活動サポートセンター		古山理事
	11月9日	浪江のこころ通信取材協力者連絡会議	郡山市 市民交流プラザ(ビッグアイ)		古山理事
	11月13日	全国ボラフェス2015会議(県社協)	福島市 A・O・Z		
	11月17日	年末調整説明会	福島市 福島県文化センター		武川敏子
	12月5日	復興支援活動の状況及びニーズ把握のためのグループヒアリング/(株)ダイナックス都市環境研究所、JCN他	福島市 JCN福島事務所		古山理事
	12月7日	2013年度(第4期)通常総会・懇親会	福島市 市民活動サポートセンター		役員、事務局
	12月18日	ふくしま連携復興センター月例会	郡山市 ミューカルがくと館		古山理事

主な出張、会議等への参加				
2015年	1月8日	年始の挨拶（情報交換）	浪江町桑折出張所	古山理事
	2月7日	年始のご挨拶	伊達郡桑折町 桑折御蔵	古山理事、田村
	2月9日	食の安全・農業再生PJ総括シンポジウム（福大戦略研）	福島市 ホテルグリーンパレス	古山理事
	2月13日	福島市市民活動サポートセンター運営協議	福島市 市民活動サポートセンター	古山理事
	2月16日	全国ボラフェス2015 専門部会（分科会企画）	福島市 県社協議会議室	古山理事
	2月26日	「ふくしま未来基金」説明会	福島市 福島テルサ・つきのわ	古山理事
	2月28日	浪江のこころ通信グループインタビュー	茨城県水戸市 好文カフェ	古山、松田理事
	3月4日	けんぼく6次化ミーティング交流会（福島県）	福島市 杉妻会館	古山理事
	3月12日	6次化ミーティング研修会+『おたがいさま新聞』取材	猪苗代町（南）ホンダワイナリー	古山理事
	3月17日	福島県社会福祉協議会ボランティア推進委員会	福島市 県社協議会議室	古山理事
	3月19日	6次化ミーティング研修会	山形県上山市 蔵王ウッドフィアーム、他	古山理事
	3月23日	ふくしま連携復興センター、復興庁 被災者支援Co.事業等説明・研修会	郡山市 ビッグパレット	古山理事
	4月3日	相想スマイルPJ はじまりのミーティング （高校生チーム+大学生チーム 5名）と事務局	福島市 市民活動サポートセンター	田村、佐藤翔太、 綱川、松本、佐藤直 哉、古山理事
	4月4日	住友商事YCPオリエンテーション	東京都中央区 住友商事（株）本社	田村、松本、 古山理事
	4月9日	自治会会長交代に伴うご挨拶	福島市 笹谷東部仮設住宅自治会	古山理事
	4月18日	想馬スタンプPJ LINEスタンプ販売開始（記者会見）	相馬市 相馬市市民会館	佐藤玲子理事、 佐藤りみさん
	4月20日	全国ボラフェス2015 第7回専門部会会議	福島市 県社協講堂	古山理事
	4月23日	NPO法人まごころサービス福島センター 須田氏	福島市 （庭坂の活動拠点）	松田、古山理事
	4月27日	赤い羽根・ボラサボ説明会	郡山市 ビッグパレット会議室	古山理事
	5月19日	全国ボラフェス2015専門部会		古山理事
	5月21日	ふくしま連携復興センター月例会議	郡山市 ミュールがくと館	古山理事
	6月13日	福島大学経営戦略研究会 総会	福島市 福島学院大学セミナー室B	古山理事
	6月16日	浪江のこころ通信グループインタビュー	福島市 飯坂町平野	古山理事、豊口
	7月4日	桑折駅前応急仮設住宅第3集会所の図書入替	伊達郡桑折町 仮設住宅自治会	古山理事、森谷さん
	7月9日	美味しい「ふくしま」県外イベント協力要請（PR）	福島市役所市民活動支援課・観光コ ンベンション支援室	古山理事
	7月13日	浪江まち物語つたえ隊（生放送）出演応援	ラジオ福島本社	松田、古山理事
	7月26日	J-capta 研修会	福島市 ラコパ会議室	古山理事
	8月8日～ 9日	「相馬に出陣！高校生が考えた旅」	福島駅、相馬市、南相馬市（駅戻り）	PJメンバー、参加者、 松田、古山理事
	8月17日	美味しい「ふくしま」県外イベント協力要請（PR）	福島県農林水産物流通課（鈴木 氏）、他	古山理事
	8月26日	福島市市民活動サポートセンター運営協議会	福島市 市民活動サポートセンター	古山理事
	8月28日	全国ボラフェス2015専門部会	郡山市 ビッグパレット	古山理事
	9月6日	にいがた国際ボランティアフェスティバル（出展）	新潟市 新潟ふるさと村（道の駅）	松田、古山理事
	9月12日	住友商事（株）東日本YCP フォーラム2015 中間報告会	仙台市 アエル会議室	田村、太田、松本、 松田、古山理事
	9月13日	同上 ポスターセッション&シンポジウム	仙台市 アエル会議室	田村、伊東
9月26日～ 27日	浪江のこころPJ 浪江のこころ通信取材協力者情報交換 会	26日：浪江町視察 27日：情報交換会	遠藤、古山理事	
9月30日	福島県社会福祉協議会ボランティア推進委員会	福島市 県社協議会議室	古山理事	

事業提案を行った助成金・補助金申請先とその結果について

- 2014年度は5本の事業提案を行い、そのうち3本が採択になりました（6割の確率）。
なお、現在も2本のPJに取組み中です。

年	月	提案事業名	ドナー等	
2014年	10月	被災地の「今」を伝える 相想（そうそう）スマイルプロジェクト	東日本再生ユースチャレンジ・プログラム2015 活動・研究助成/住友商事（株）	採択
	11月	飯坂温泉映画ロケ散策マップによるDCの活性化支援と県北ゆかりの映画作品の調査・データベース化事業	福島県地域づくり総合支援事業（サポート事業）/福島県県北振興局	不採択
2015年	4月	世代を超えて、ふくしまの「今」を伝え続ける～101人の声プロジェクト	ふくしま未来基金（ふくしま・未来づくり助成制度）/（公財）パブリックリソース財団	不採択
	5月	学生ボランティアによる地域の宝可視化復興支援プログラム開発プロジェクト	赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金第17次/（社福）中央共同募金会	採択
	6月	美味しい「ふくしま」召し上がれ—近くから遠くまで、福島をPR—	平成27年度「ふくしまの恵みPR支援事業」/福島県県北農林事務所	採択

● 申請予定の事業計画

1. 「現地 NPO 応援基金」特定助成「東日本大震災復興支援 JT NPO 応援プロジェクト」第 11 回
/認定 NPO 法人日本 NPO センター（募集期間：2016 年 1 月 4 日～1 月 18 日）
2. 東日本再生ユースチャレンジ・プログラム 2016 調査・研究助成（継続）/住友商事（株）・
NPO 法人市民社会創造ファンド（募集期間：2016 年 1 月 8 日～15 日）